

1. 審査講評

(1) 総評

長崎県では新たな動物愛護管理センターの整備にあたり、「命の尊さについて学ぶ施設」「人と動物の健康と環境を守る施設」「交流と連携を生む、親しみある施設」「災害に備える施設」を4つの基本コンセプトとし、「人と動物のかかわりを豊かなものとする」施設の実現を目指しているところである。

本提案は、他県における動物愛護管理センターの整備や運営の実績を有する複数の企業から構成されたグループからの提案であり、上記に示すコンセプトの実現に向けて掲げる理念や実績を活かした工夫等について高く評価された。

施設の整備計画については、地域との連携や利用しやすい施設となるよう運営開始後を見据えた視点からの工夫が盛り込まれた提案が評価された。地元とともに施設を作っていくことを目指し、利用者や子どもらの声を取り入れるための設計時の子どもワークショップなどの提案を有効に実施することで、よりよい施設の整備及び運営が期待できる点が評価された。

(2) 項目別講評

1) 事業方針に関する事項について

類似業務の実績を有する企業によるグループとなっており、長期にわたるPFI事業を効率的に実施できる体制の提案が評価された。

また、地元の大学や企業との連携の工夫や、地元の人材活用、資材調達等、地域経済への貢献に対しての提案については特に評価された。

2) 施設整備に関する事項について

勾配屋根を持つ平屋とすることで景観に配慮されていることや、内外を一体的に使う工夫や、安全性・利便性の高い施設配置が提案されていることが評価された。特に、研修室、エントランスホール、交流テラスの一体的な活用により、利便性を確保しつつ建物面積を減らすことで整備コストを抑制し、かつ多様な使い方できる工夫が高く評価された。

また、館内を機能別に5つのエリアに分け、シンプルでわかり易い動線となっている点、子どもが交流できるよう絵本や図書コーナーや交流テラス、市民の憩いの場を意識して計画されている点が評価された。

多様な来館者への配慮や、全体におけるトイレ計画については、今後、具体的な設計段階での協議を通じ、より利用しやすい施設となるよう工夫してほしいとの指摘があった。

犬の鳴き声による騒音や臭い対策について、隣接施設や県工業技術センターに対しては事業を進める中で継続的な対応が必要との指摘があった。

省エネ材料や県産材を積極的に採用したりするなど環境に配慮している点が評価された。一

方、断熱性や日射による空調負荷低減の工夫が必要との指摘があった。

また、夏には木陰、天井のシートを設けるなど犬の過ごしやすさに配慮し、涼しさを確保する工夫に期待するとの意見があった。

3)施設の維持管理・運営に関する事項について

ふれあい広場やイベント広場の交流、子どもワークショップ等の提案について、夏休み期間の賑わいにつながることを期待できる点が評価された。

動物の特性に応じた隔離スポットや他の動物とのふれあいという取り組みの提案は特に高く評価された。

4)入札者独自の提案に関する事項について

大学と連携した動物とのふれあいイベントやインターンシップの提案、動物に関連する地元事業者との連携の提案が評価された。

(3) 選定委員からの意見等

「誰もが学び、考え、親しむ場」として、本県の目的の一つである人と動物も命は同じという「命の学び」の福祉教育の視点をもって取り組んで頂きたい。命の大切さを学ぶ教育では、動画や統計データ等を活用する等、年齢に応じた学びができる工夫も取り入れて頂きたい。

動物福祉については、外部との連携だけでなく、愛玩動物看護師の起用やドッグトレーナーの資格を持つ方をボランティア募集するなど、運営者自身の体制強化についてもぜひ力を入れて頂きたい。動物福祉に正解はないが、動物に選択肢を与える考え方が大事である。

ふれあい体験が動物福祉にはマイナスに働く可能性に留意する必要があるところ、動物への負担を抑えつつ、動物について一般の人に知ってもらえるためのカルテなどを活用した運営の提案について期待している。また、動物を用いない教育方法などの工夫についても模索してもらいたい。

将来的に収容される動物の数が減っていくことが予想される中、利用方法の変更に対応ができる配慮があり、長期的な運営の中で、今後工夫していくことへ期待したい。

地域の中でのあり方としては、人と動物が楽しく遊ぶことができる場所として、日常的に施設の外周や犬との遊歩コースなどとして地域の人たちが活用できるよう配慮頂きたい。地域の資源や人材と連携した施設の利用促進や交流創出のため、運営には地域からも参加してもらうなど、地域住民による意見を取り入れ、地域共生型の施設を実現して頂きたい。